ISSN 1342－632X
国際資料研究所報 Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 Documenting Japan

DJ I レポート

No. 131 20230415

国際資料研究所報 Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 Documenting Japan
〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸３―８―24 phone 0466－31－5061 Email : djiarchiv@yahoo.co.jp

2023 年度展望：高市発言を怒る

今年になって、国会審議のなかで、高市議員が自身の過去の発言について「公文書捏造」という発言が飛び出した。これは、発言をたどると、論じるまでもない低レベルの、自身の思い上がりが記録されたものだ。人品卑しい形ばかり取り繕った国会議員が昨今あまた見受けられるのは、残念ながら事実であろう。自分に不都合な過去の失敗を、記録の作成方法と作成者（多分、担当した政府職員）のせいにして、自分は関係なしと言い切るところは、芝居なら悪役そのものだ。その存在を目の当たりにさせられる国民の一人として、税金でこんな悪人を雇っていることを悲しく思う。

と同時に、このような出来事のおかげでアーキビストの役割が注目され始めた。このような場面で注目を浴びるのは、アーキビスト本来の使命とはとても思えないが、存在を示すには好機ととらえるべきかとも思う。

高市氏「杉尾氏に言われ、辞任ない」文書は「怪文書の類」
20230328 10:44

高市早苗経済安全保障担当相は28日の参院予算委員会で、立憲民主党の杉尾秀哉氏から放送法に関する総務省の行政文書を巡る問題で引責辞任するよう求められ、「杉尾氏に言われ、何らやましいこともないのに閣僚の職を辞するということはない」と否定した。

高市氏は自らが登場する4枚の文書に関し「作成者も配布先も目的も不明だ。いわば怪文書の類だ」と指摘。高市氏はこれまで文書を「捏造（ねつぞう）」と述べてきたが、「偽造でもなく、変造でもなく、捏造だとかなり配慮して申し上げた」と語った。

多事奏論
くらし報道部・科学みらい部次長 岡崎 明子
公文書管理 アーキビスト 活用されぬ日本

朝日新聞　2023 年 3 月 29 日

他にも、高市氏に対する批判的な記事は多く目につく。例えば、高市早苗氏は地元や総務省から総スカン…捏造発言は職員への「配慮」と主張の支離滅裂 (msn.com) [日刊ゲンダイ DIGITAL によるストーリー・3 月 29 日;20230329 確認]などの論調は、国際資料研究所が支持するところだ。この問題は、日本の政治家の品格を問うている。そう考えれば、2023 年、高市早苗氏に対する岸田自民党の対応如何で、公文書管理とその長期保存をめぐる政治的取組の行方が見えてくるだろう。かつて『国家の品格』が話題になったのは、その当時の国民が、品格を備えた日本社会への期待を代弁していたのではあろう。

国会で最近もまた公文書への注目が高まった。放送法の「政治的公平」に関する総務省の行政文書を巡り、当時総務相だった高市早苗経済安全保障担当相が捏造(ねつぞう)と主張した問題だ。日々の行政事務や意思決定の記録を文書に残す「文書主義」の原則は、情報公開が進み、現在と将来の国民への説明責任が求められる中で一層普及した。２０１１年施行の公文書管理法でも明示されている。その根幹を崩す発言で「（国家公務員への）敬意もなく黙って言うことを聞けと居直っていて、怒りを感じる」と語る。
（信濃毎日新聞 2023 年４月６日付　15 面　文化欄　抜粋）

高市発言に直面し我々国民は、今の日本の国家と政府と政治に何を期待できるのだろうか。国際資料研究所の怒りは収まらない。　（ち）

おもな内容　DJIレポート　No.131　20230415

2023 年度展望・高市発言を怒る……1
散歩道・歴博見学他/消息……2
文献紹介/あしあと/活動 ……3
巻末随想:ご愛読お礼/文書館運営/衝撃波治療 他……4

【アーキビストの散歩道】　国立歴史民俗博物館の見学

千葉県佐倉市の山の上に、国立歴史民俗博物館（略称レキハク）ができてからもう40 年余りが過ぎた。レキハクを訪れたことは何度かあるのだが、用向きのための訪問ばかりであった。嬉しいことに、そのレキハク見学ツアーに誘われた。2 月 2 日、ついに、展示を見学するためにレキハクに行くことになった。シニアといえども、こういう時は修学旅行生のように、気持ちはウキウキ。JR 佐倉駅改札で仲間の到着を待つこと 20 分くらい。この日は駅構内といえども寒風吹きすさび、節分前の寒さは身に染みた。イノシシにエサをやらないでください、という旗をビューンと風が吹き抜ける佐倉駅は、かつて訪れた佐倉駅とは全然異なる駅舎であり、駅前広場であった。レキハクの高科先生がお出迎え下さり、レキハクまでは車で移動した。かつて息を切らして徒歩坂道を上った記憶とはかけ離れた快適さであった。

レキハクの展示はいくつもの部門区分されている。今回は民俗部門の展示を見学させていただいた。たくさんある部門の一つだし、と思って見学し始めたのだが、見ても見ても終わらない。民俗の部門だけで、十分すぎるほどの展示物と情報に接した。日本人の日常の様々なハレやケを象徴する博物の陳列は圧倒的だった。その後喫茶室に行こうとしたら、ちょっと時間が押していた。でも、館内の案内係の方々があちこちに立っておられ、無線（古いな！）で連絡を取りあい案内して下さった。それで、我々は無事に時間内に喫茶室に到着、穏やかなお茶の時間を満喫した。この連携サービスが、今回のレキハク見学を大きな暖かい思い出にしてくれたと思う。日夜展示物の研究に心血を注ぐ学芸員や研究者が数多く所属するレキハクには、こんな優しく温かい連携サービスがあることに、私はとても感激した。心が和らいだレキハク見学だった。ありがとうございました。

【アーキビストの散歩道】「呼ばれたい性」

フェースブックでは、時に新しい知識を教えてもらうことがある。今回は、2 月下旬に拝見した M さんの書込みで、自分の性別の表記について勉強した。大変興味深い内容なので、ここに引用紹介する。

海外では「呼ばれたい性」というような欄があるそうで、"he,him/she,her/they,them" から選ぶそう。私が "they" って驚いたら今では三人称単数でも使うのだと。へ～と M さん。調べたら、Merriam-Webster では 2019 年に they の使い方として掲載になったよう。
■以下 they の説明で d)をグーグル翻訳
「私はいくつかのことを知っていました…私がインタビューしていた人.…彼らは数年前にジェンダーニュートラルな名前を採用し、意識的にノンバイナリー、つまり男性でも女性でもないと認識し始めました。 彼らは 20 代後半で、イベント プランナーとして働き、大学院に出願していました。」

◆◇アーキビストの消息（順不同）◇◆◇【凡例：●個人■機関】

【訃報】

●松崎　彰　氏

2022 年 10 月 18 日逝去。1985 年頃中央大学 100 年史編さん室ご勤務の時代、知己を得た。全国大学史資料協議会東日本部会名誉会員。全国大学史資料協議会の設立に尽力され、今日の大学史資料協議会の礎を築いた方だ。いつも明るい声と共に登場する、あの高笑いが懐かしい。合掌。【全国大学史資料協議会東日本部会会報 No.68 2023. 3.31 既報】

●馬場　啓一　氏

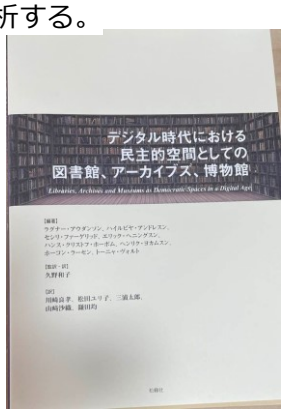
作家、エッセイスト。インターネット情報では「福岡県生まれ、早稲田大学卒業」と紹介されていたが、小中高は名古屋育ちと明かしていなかったことは同窓として不本意。同窓の集まりには決まって夫人同伴。昨年秋体調を崩し 2022 年 12 月 21 日逝去、享年74。同期の仲間の訃報は、結構辛い。合掌。

●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼

●『デジタル時代における民主的空間としての図書館、アーカイブズ、博物館』

図書館やアーカイブズ、博物館といった機関を、デジタル社会・多文化社会における物理的・複合的な「公共空間」として位置づけ、それぞれの機能と役割を考察する。欧州諸国を例に取り上げ、これら機関に関してどのような政策が採られているか、また現状や関係者の認識、課題等について具体的に分析する。

久野 和子（監修，編集），川崎 良孝（翻訳），三浦 太郎（翻訳），松田 ユリ子（翻訳），鎌田 均（翻訳），山﨑 沙織（翻訳、国際資料研究所主催「湘南BBQ」常連） 354 頁 2023 年 2 月、松籟社 京都 ￥4,180



■UNHCR 緒方貞子アーカイブ目録オンライン公開

2023 年 3 月 1 日、UNHCR アーカイブ課のウェブサイトに、緒方貞子アーカイブの目録が公開された。冒頭説明に、これが日本政府の金によるものとある。

ネット上にある UNHCR 国連難民高等弁務官緒方貞子資料目録は、検索コード UNHCR13/5 、緒方貞子作成資料、作成年代 1990-2000、20 種類に分類されている。緒方貞子関係資料はこのほかに、本部広報資料 10c などがある。検索するには、UNHCR Archives and Records から検索画面で Sadako Ogata を検索、さらにこの下に詳細な目録が掲示されている。なお、これはあくまでも目録情報であって、原本画像をネット上で閲覧できるものではない。

なお、ニューヨークの国連本部アーカイブでは原本画像も公開されている。ご参考まで。（ち）

●千代子のあしあと●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJI レポート No.131 202230415 A4 判 4 頁 PDF（本誌）掲載先 URL: www.djichiiyoko.com

▼ナスの日通信 No.1 メルマガとしてスタート、20230318 ナスの日会メンバーによる回り持ち執筆，月刊発行を目標。

DJI 国際資料研究所の主な活動 2023 年 1 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

＜執筆＞
DJI レポート No.131 20230415 A4 判 4 頁 PDF（本誌）
ナスの日通信 No.1 20230320 メルマガ限定配布
＜出講＞
1 月 10,17,24,31 日 東京学芸大学博物館資料保存論，対面授業,東京
＜主催＞
2 月 4 日 湘南 BBQ 対面 11 名参加 湘南辻堂の小川宅
＜参加＞
1 月 15 日 東京雑学大学講演会 西東京市
2 月 25 日,3 月 25 日 東海岸 3 丁目町内会役員会、藤沢
1 月 29 日 藤沢市防災講演会 労働会館 藤沢市
1 月 17 日 ナスの日会 第 1 回 吉祥寺、東京
2 月 10 日 デジタルアーカイブサロン第 139 回（通算 165 回）図書館を中心に「本の有る場」のいろいろを探索ーzoom
2 月 11 日 防災豚汁の会 町内会防災部主催 小川宅
2 月 25 日 R4 年辻堂地区防災講演会「富士山はいつ噴火するのか」萬年一剛氏（神奈川県温泉地学研究所）辻堂地区防災講演会 辻堂市民センター大講堂 藤沢市
2 月 28 日 マダムワカコと電話会談 北海道地震お見舞
3 月 2 日 寒川文書館運営審議会 寒川文書館 神奈川県
3 月 14 日 松本市文書館運営協議会 松本市文書館 松本市
＜見学＞
2 月 2 日 国立歴史民俗博物館:民俗 佐倉市立美術館
3 月 22 日 ミキ子さんと星の王子様ﾐｭｰｼﾞｱﾑ見学、箱根
＜その他＞
1 月 9,16,30 日 2 月 7,19,28 日 3 月 6,21 日 ラウラ先生のルーマニア語お稽古オンライン
2 月 7 日 Aibi さんと銀座ランチ
2 月 9 日 ひげでん 曙ランチ 辻堂海岸
2 月 14 日 松本城界隈散策
2 月 16 日 町内会茶話会 小川宅
2 月 22-23 日 洋子さん里美さんと伊良湖岬泊、愛知県
3 月 2 日 千種台 39 会幹事会 有楽町さがみ 東京
3 月 4 日 東京都公文書館見学 Inami さん同行 国分寺
3 月 13 日 モトコさんと千座（ちくら）うどんランチ、山梨県
3 月 14 日 信毎取材 メディアガーデン 松本市
3 月 29 日 記録管理学会打合せ zoom
1 月～3 月 医療機関受診録 辻堂金沢クリニック 3 回 つるしげ歯科 1 回 はじめクリニック 1 回 ほしの眼科 1 回 いわもと皮膚科 2 回 マリソル整形外科（物療衝撃波）16 回 湘南辻堂徳洲会病院救急外来 1 回(2 月 25 日)

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

■巻末随想

■DJI のこれまで　ご愛読のお礼

本誌は今号で 131 号となりました。阪神淡路大震災による資料保存機関の被災状況調査報告を目指して 1995 年 1 月に創刊した『DJI バイマンスリーレポート』が、その後アーカイブに特化したミニコミ誌としてここまで継続してこられたのは、ひとえに読者諸兄諸姉の応援によるものであります。ここに、改めて皆様のご厚誼ご愛顧ご愛読に感謝を申し上げます。なお、DJI はなお当分発行を継続する予定です。

■ナスの日会立上げ　1 月 17 日

何年か前に、JR 中央線電車で家路を辿っていた。その時目の前に知った人物を見かけ、声をかけた。年賀状交換程度の間柄だが、機会あれば一杯(❣)という間柄。再会を約束して友人は電車を降りた。そして、今年の 1 月 17 日、ついにその再会のチャンスが巡ってきた。この際ぜひ一緒に会いたいもう一人も加わり、3 女子会が開催された。その日は 1 月 17 日だった。そして、なぜか私のｹｰﾀｲには「毎月 17 日は国産ナスの日」と表示されていた。旧交を温めるおしゃべりの中ので、それに因んでこの会合は「ナスの日会」と命名された。その後、次回の会合設定には至らず、代わりにメルマガ「ナスの日通信」を毎月発行ことをメンバーに提案した。賛否は分かれている。

■文書館運営を考える季節

3 月は、年度末、文書館の運営を巡る外部の意見を聴取するための、文書館運営の会議が開催される時期でもある。この 3 月も、筆者が関わる 2 つの文書館運営会議が開催された。

どちらも発足当初からかかわってきている文書館である。どちらも自治体史編さんを土台として発足した文書館である。自治体史編さんの担当者がそのまま文書館の職員として活躍したことも共通だ。一つは 2007 年、もう一つは 2000 年の開館だから、20 年前後という長いお付き合いになっている。発足の頃は自治体史編さんの経験を生かした地域資料中心の文書館運営であった。だが、2011 年に公文書管理法が施行され、地方公共団体の文書管理に関する努力義務が課されると、状況は少しずつ変化し始めた。今年は公文書の受入と評価選別が文書館活動報告の筆頭となった。デジタル化に関しても活動計画の中にジワリと影響が見えてきた。技術も、制度も、毎年少しずつだが新しい動きが見えるようになってきた。とりわけ公文書への目配りが、文書館運営の主眼になってきている気配がある。実に喜ばしいと感じる。そして、自らが費やしたアーカイブ世界との時間が、結構長くなっていることを改めて自覚した。

■衝撃波治療

近頃、整形外科通いが続いている。1 月のある朝、両手の指がこわばって、グーができなくなった。それで、近くの整形外科に飛び込んだ。医者は、私のこわばった両手の中指を無理やり曲げようとする。私は思いっきり「イタ～～イ！」と叫んだ。声はきっと待合室にも響き渡ったはず。

医者はそんなことお構いなしで「新兵器があるんですよ。衝撃波治療。やってみましょう！」と嬉しそう。その朗らかさにつられて、私は衝撃波治療を受けることになってしまった。何やら、電気仕掛けで患部に「衝撃波」が連続的に打込まれる療法だそうだ。理学療法士の担当者がピカピカの器具を私の手指患部に当てると、ジャカジャカと音がする。活け花に使うケンザンを両手指の具合が悪い患部に機械的に当てるような感触だ。裁縫用ミシンの針が患部に継続的にチクチクさわるようにも思われる。とても痛い。週 1 ～2 回、合計 10 回の治療を終えたのは、 2 月下旬だった。でも患部の痛みやこわばりにほとんど変化なし。医者の見立ては「もう少し続けましょう」。結局、第 2 クールに入った。3 月末現在、第 2 クールの 4 回目まで到達したが、残念ながらそれほどの回復は感じられない。

■湘龍 Jr.

2023 年 3 月 2 日、かわいがっていたサバ柄のネコ、湘龍 Jr が逝った。2020 年 6 月 7 日生まれ、たった 2 年 9 か月、人間年齢換算でもせいぜい 25～26 歳と若いのに…。尿毒症か腎臓病か、激しい黄疸症状で、数日間臥って、亡くなった。本ニャンは症状を訴えているのに、周りの人間はそれを全く理解できないということを、改めて思い知らされ、そのことがとても悲しかった。大好きな、かっこいい湘龍 Jr.…我が家の歴代ニャン達と共に、彼岸で楽しい日々を過ごしてね。合掌。（ち）

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 電←DJI 電子バージョンのマーク ISSN 1342－632X

DJIレポート　DJIホームページ: http://www.djichiiyoko.com　No.131　20230415

発行所：国際資料研究所 Documenting Japan International Email:djiarchiv@yahoo.co.jp 代表 小川 千代子
〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸 3－8－24 phone 0466－31－5061　fax 0466－33－8535